



上分小学校便り

えがお・いきいき・かがやく

No8 R5.10.24



人権意識を高めるために

学校では、子どもたちの人権意識を高めるため、授業や生活のあらゆる場面を通して、人を大切に思う心と態度の育成を図っています。参観日に見ていただいた授業は、そうした取組の一端です。

授業では、いろいろな場面を想定し、その中に自分を置き、自分ならどうするかを問うことで、自分の事として考えさせています。ときには、実際に起きたことを想起させることもあります。参観授業では、そうした真剣に考える子どもたちの姿を見ていただけたものと思います。

人を大切にする生き方は、自分自身を幸せにする生き方でもあります。その反対に人を差別する生き方は、自分をも傷つける生き方です。人権・同和教育は、自分の生き方に直結する大切なものとして、これからも継続して参ります。ご家庭でもご協力をよろしくお願いいたします。



男らしく・女らしくより自分らしく

今年の人権・同和教育参観日では、

日本LGBT協会代表を務められている清水さんにご講演をしていただきました。清水さんは、多様性を認める社会の実現を目指して日本中を飛び回り講演活動などをしておられます。その根底には、理解されずに苦しんだ時代や一生のパートナーと出会って幸せに暮らしている今があるのだと思いました。ご講演は自分を見直す大きな契機となるものでした。それだけ、清水さんの生き方がすばらしく、尊敬できるものだったからでしょう。

これから子どもたちは、多様性が当たり前認められている社会で暮らしていくことになります。もちろん、そうしなければならない責任は私たちにあるのですが。そこに、偏見や刷り込みは必要ありません。私たち大人が自分自身を振り返り、ひとつずつ偏見や思い込みを取り除き、自分らしく生きること認めたり、自らがそう生きたりすることこそ、子どもたちの生き方を豊かにするのだと思いました。

